

2014年2月1日発行

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES
日本国際文化学会ニューズレター26号

<http://www.jsics.org/>

日本国際文化学会事務局

753-8502
山口県山口市桜島3-2-1
山口県立大学
国際文化学部事務室内
Tel/Fax:083-928-3423
email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

第13回全国大会 自由論題発表者を募集中です！

2014年7月5日(土)、6日(日)

『文化を「しあわせる」-地と知を織り成す拠点としての大学』

第13回全国大会を開催するにあたり、自由論題を募集しています。ご応募お待ちしております。

- ・自由論題は原則として個人研究発表ですが、内容により複数の発表者による発表も可とします。いずれも発表時間は質疑応答も含めて30分とします。質疑応答の時間が十分とれるよう、発表時間の目安を20分程度としてください。
- ・応募は日本国際文化学会の会員に限ります。ただし、現在学会会員でない方は、申込みと同時に会員登録を行うことにより資格を得るものとします。
- ・応募は、氏名・現職（大学教職員・有識者・企業や団体・研究所等の場合は所属と肩書き、大学院生・学生の場合は在籍課程などを明記）・連絡先・自由論題発表題目・キーワード（3～5語）を冒頭に記し、発表要旨（40字×25行以内）をつけて、**2014年3月末日（必着）までに学会事務局にご提出ください。**
- ・宛先：〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1
山口県立大学国際文化学部事務室内 日本国際文化学会事務局
e-mail：jsics@yamaguchi-pu.ac.jp
- ・応募いただいた場合、1週間以内を目途に受取確認メールをお送りします。受取確認メールが届かない場合は、お手数ですがご一報お願いいたします。
- ・応募いただいた自由論題については、2014年4月初旬に開催する常任理事会で審議し、結果についてご連絡いたします。

第13回全国大会プログラム概要

* 詳細は次回ニューズレター、大会チラシ等でお知らせいたします。

●大会日程

7/4(金) 20:00-21:30 常任理事会・理事会

ホテルニュータナカ（弥生の間）〒753-0056 山口県山口市湯田温泉2-6-24

TEL: 083-923-1313 Fax: 083-925-6316

* 顧問・常任理事・理事の方々には別途ご案内いたします。

山口宇部空港（ANA東京羽田から18:05着、JAL18:20着）を18:45発の送迎バスをご利用になり、新山口駅新幹線口経由17:15発で、湯田温泉の会場またはその周辺ホテルまでお越いただくことができます。

7/5(土)

8:30 受付
9:30-11:30 自由論題
11:45-13:45 共通論題
13:45-14:45 昼食
15:00-17:30 シンポジウム
18:30-20:00 情報交換会

*情報交換会にご出席の方には会場までの、
また情報交換会終了後には湯田温泉経由で新
山口駅までのバスが出ます。

7/6(日)

8:00 受付
9:00-10:00 自由論題
10:10-12:10 共通論題
12:10-13:10 昼食・総会
13:15-14:45 フォーラム
15:00-16:40 学生向けワークショップ

*山口宇部空港最終便(東京羽田空港行き)をご利用
の方には17:00に新山口駅経由で空港行きのバスが出
ます。山口宇部空港までの所要時間は約1時間です。

●大会会場

大会会場：公立大学法人山口県立大学新キャンパス

<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/annai/gaiyo/syuuhen.html>

JR山口線宮野駅から徒歩8分。

●山口県立大学新キャンパスへのアクセス

・航空機利用の場合：東京羽田→山口宇部空港、空港バスで新山口駅へ、J R 山口線で宮野駅下車、徒
歩8分。

・新幹線利用の場合：最寄駅から新山口駅へ、J R 山口線で宮野駅下車、徒歩8分。

*バスやJ R等の時刻表等についての詳細は、大会プログラム発表とともにお知らせします。

●大会事務局

山口県立大学国際文化学部事務室内日本国際文化学会事務局

大会委員長 鈴木隆泰(山口県立大学大学院国際文化学研究科長)

連絡先 〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1

山口県立大学国際文化学部事務室内 日本国際文化学会事務局

e-mail: jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

●大会参加費

一般会員 2,000円(当日2,500円) 一般非会員 3,000円(当日3,500円)

院生・学生 1,000円(当日1,500円)

情報交換会 一般 5,000円 院生・学生 2,500円

お弁当代(お茶つき) 7月5日 1,000円 7月6日 1,000円

*学会開催日に当たる週末は学生食堂が閉まっており、会場周辺には食堂やお店がありません。

お弁当の予約をお勧めします。

●振込方法と振込先

次回ニューズレター(2014年4月中旬に発行予定)に、事前申し込み登録方法をお示しし、専用の振込
用紙を発送します。

●共通論題が決定しました

7/5(土) 11:45-13:45

・共通論題1:「飯舘村再生への文化の貢献」

司 会:若林一平(文教大学名誉教授)

基 調 報 告:菅野宗夫(飯舘村農業委員会会長、特定非営利活動法人ふくしま再生の会理事)

パネリスト:加藤久美(和歌山大学)、サイモン・ワーン(和歌山大学)、
川村湊(法政大学)、椎野信雄(文教大学)

・共通論題2:「戦前・戦中期の中国をめぐるトランスナショナル・ネットワーク

——ジェームズ・バートラム、松本重治、渋谷敬三」

司 会:山内晴子

報 告 1:「西安事件取材したニュージーランド人:ジェームズ・バートラム(仮)」

山岡道男(早稲田大学)

報 告 2:「戦前期の松本重治と上海におけるイギリス帝国ネットワーク(仮)」

高光佳絵(千葉大学)

報 告 3:「渋谷敬三の中国をめぐるネットワーク——1943年訪中から戦後へ(仮)」

飯森明子(常磐大学)

7/6(日) 10:10-12:10

・共通論題3:「造られる文化、変わる文化——映画、音楽番組、大衆演劇を事例として」

司 会:鈴木裕輔(法政大学)

報 告 1:「日本映画における〈妖怪〉:日本映画における伝統文化の引用と変容」

ティタニラ・マートライ(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)

報 告 2:「こうして文化は作られる——NHK紅白歌合戦を事例として」

シェリー・ブラント(ロイヤル・メルボルン工科大学)

報 告 3:「宝塚歌劇とレビュー——外来文化の普及と定着」 鈴木裕輔(法政大学)

・共通論題4:「近代日本の対外認識——中国・モンゴルへのまなざし」

司 会:堀内直哉(目白大学)

報 告 1:「有賀長雄の対外認識——日露戦争から辛亥革命まで」 伊藤信哉(松山大学)

報 告 2:「右翼思想家の中国認識——満州事変から日中戦争直前まで」 萩原稔(大東文化大学)

報 告 3:「モンゴル認識の形成——財団法人善隣協会の活動とモンゴル研究の軌跡から」

鈴木仁麗(明治大学)

●シンポジウム 7/5(土) 15:00-17:30

テーマ:「ここから始まる私の地球——インターローカル人材が拓く未来」(仮題)

概要(基調講演):セリグマン教授(Adam B. Seligman、ボストン大学、Institute on Culture, Religion and World Affairs代表、哲学・社会思想家、社会学者)をお招きします。“Intercultural Exchange for Mutual Trust: Practical examples from my experiences”(仮題)をテーマに、文化の対立・和解・寛容性・対話等をキーワードに、特に若者を対象としたサマースクールやThe Toleration Projectを通して相互理解を生み出す取組について語っていただきます。セリグマン氏のプロフィールについては以下をご参照下さい。同時通訳あり。

<http://www.bu.edu/cura/faculty-staff/research-associates/seligman/seligman/>

概要（シンポジウム）：山口県立大学で「地域が教室・地元が先生・地球がキャンパス」という教育研究実践をおこなってきた安溪遊地教授（国際文化学部）が文化人類学者川喜田二郎の移動大学運動と山口県出身の民俗学者宮本常一のフィールドへのまなごしを受け継ぐ取り組みについて紹介し、基調講演者やパネラーを交えて、これからの人と人との相互理解の機会創出と国際文化学の使命について議論します。

*このシンポジウムは日本国際文化学会第13回全国大会の枠組みの中で、山口県立大学グローバル人材育成推進事業の域学共創セミナーとして開催し、広く一般にも公開します。

●情報交換会 7/5(土) 18:30-20:00

明治10年頃に料亭として創業した菜香亭は、130年間にわたり著名人の集まる場としてにぎわってきました。伊藤博文・山県有朋・寺内正毅・田中義一・三条実美・木戸孝允・井上馨・岸信介・佐藤栄作等の揮毫が掲げられた大広間で情報交換会を行います。2004年10月に、山口市の観光施設や市民交流の場、大内文化のまちづくりの拠点として生まれ変わりました。

<http://www.c-able.ne.jp/~saikou/>

●総会 7/6(日) 12:10-13:10

平成25年度の活動報告・決算等、平成26年度の活動案・予算案等を審議します。第4回平野健一郎賞の授与式を行います。

●フォーラム 7/6(日) 13:15-14:45

テーマ：『文化は地域や世界に希望をもたらすか？』

——文化創成コーディネーターの可能性と教育カリキュラム』

概要：学会が取り組んできた文化創成コーディネーター資格認定制度の始動も近づいてきました。文化をつむぎ、つなぎ、てわたすという文化創成コーディネーターの専門性について、すでに地域社会の中にある先例を見据えつつ、現行の国際文化学カリキュラムのなかで実践できる事例を報告します。すでに地域の中で文化交流や文化創造、文化発信等の実践活動を行ってきた学生に発表してもらい、もう一步先を見据えるためには何が必要かについて考えます。

報告者：7つの大学からの学生報告を予定しています。

●学生向け100minutesワークショップ 7/6(日) 15:00-16:40

前日の基調講演者セリグマン教授（Adam B. Seligman、ボストン大学）による実践的なワークショップです（使用言語：英語）。

フォーラム発表学生7名を含め、自由論題発表学生や学会参加学生等からの希望者を加え、30名程度の学生を対象としたワークショップです。参加者（一般会員や非会員）は聴講できます。申し込みについては、次回ニューズレターや大会案内チラシで行います。

*このワークショップは日本国際文化学会第13回全国大会の枠組みの中で、山口県立大学グローバル人材育成推進事業の域学共創セミナーとして開催します。

●宿泊について

宿泊については各自でご予約お願いします。ホテル情報は以下の通りです。湯田温泉周辺のビジネスホテルをお勧めします。また、湯田温泉周辺のホテルは混雑するので、お早めにご予約をお願いいたします。

－新山口駅周辺の場合は、会場まではJ R山口線利用で約30分です。

－山口駅周辺の場合は、会場まではバスあるいはタクシー利用になります。バスで10分程度の距離です。

－湯田温泉周辺の場合は、会場まではバスあるいはタクシー利用になります。バスで20分程度の距離です。

新山口駅周辺	ホテルアクティブ！山口	新山口駅新幹線口から徒歩1分
	東横イン	
	山口グランドホテル	
	ホテルアムゼ新山口	新山口駅新幹線口から徒歩2分
	新山口ターミナルホテル	新山口駅北口から徒歩1分
	コンフォートホテル新山口、他	
山口駅周辺	サンルート国際ホテル山口	JR山口線山口駅から徒歩10分。新山口駅北口発の防長バス市役所前下車、徒歩1分
湯田温泉周辺	グリーンリッチホテル山口湯田温泉	JR山口線湯田温泉駅からいずれも徒歩10分。 新山口駅発の防長バス湯田温泉駅下車。
	スーパーホテル山口湯田温泉	
	湯田温泉ホテルニュータナカ	
	ホテル喜良久	
	セントコア山口	
	その他多数	

第4回平野健一郎賞を募集します

学会の研究奨励賞（過去の受賞者4名）の流れの上に設立された平野健一郎賞です。この度「第4回平野健一郎賞」の募集を開始しますので、多数のご応募をお待ちしております。応募規定は学会ホームページをご覧ください。<http://www.jsics.org/hirano.html>

- 応募先：日本国際文化学会事務局宛て
- 応募締切：2014年4月30日（必着）
- 応募書類：応募書類は審査後に返却いたします。
- 応募結果の発表：第13回全国大会総会において発表し、授与式を行います。

2013年度国際文化化学関連学部・研究科 情報交換会の報告

2013年12月7日(土)、法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて、「国際文化化学関連学部・大学院等情報交換会」が開催されました。本情報交換会は、熊田会長時代に創設されたもので、代々の学会執行部が主催し、今回で5回目を迎えました。当学会の枠を越えて広く国内の国際文化化学関連学部・大学院に呼びかけ、担当者にお集まりいただき、相互に自由に情報や意見を交換するというユニークなプログラムです。この間の日本における「高等教育のあり方」とその「国際化」に関する方向性が揺らぎ続ける中で、その当事者の立場にある大学人同士の真摯な討論が行われてきました。

今回の情報交換会は特に「文化創成コーディネーター資格認定制度に関する情報交換会」として位置づけ、この間に幾多の学会員の方々の努力で企画してきた本制度に関して、情報交換会参加者の方々に充分なご理解を頂くと同時に、忌憚のないご意見を伺うことでさらに制度企画を磨きあげ、制度実施においては積極的にご参加いただくよう呼びかける目的をもったものです。事実、この資格認定制度のアイデアそのものが、東海大学札幌キャンパスで開催された第二回情報交換会から生じてきたものでした。その歴史的な流れに沿ったかたちで、2013年度龍谷大学での年次総会において、「文化創成コーディネーター教育プログラム検討ワーキンググループ」の活動報告書を受け、「文化創成コーディネーター教育プログラムおよびそれを

修めたことを証する認定制度の具体的な制度設計を行う設置委員会」が設置されたとき、熊田元会長が委員長の責を負うことを了承くださいました。

情報交換会には、青山学院大学、岡崎女子大学、佐賀大学、静岡文化芸術大学、東北大学、法政大学、宮城学院女子大学、桃山学院大学、山口県立大学、龍谷大学という10大学からの参加がありました。熊田委員長から当学会の名称に抱える「国際」という概念用語に関する課題と、さらに当学会の発足当初から特徴として研究だけではなく教育に関する議論が積み上げられてきたことの指摘がなされ、それを受けて、「短期集中セミナー」のより明確な位置づけの必要性や、「文化創成」がわかりにくい用語であることから「インターカルチュラル・コーディネーター」に変更してはどうかという意見が出るなど、活発な議論が展開されました。

今回は特に情報交換会に引き続き、山口県立大学グループを中心とした研究会「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」が開催され、情報交換会に引き続き多くの方々が討論に参加されて、なかなか実り多い一日となりました。ご尽力くださった方々に、この場を借りて、心から御礼を申し上げます。

(日本国際文化学会会長 白石さや)



研究会の報告

●第20回研究会

「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」の報告

2013年12月7日(土)15:30-17:30、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎3階F307教室にて、科研費助成研究「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」に取り組んでいるメンバーを中心とし、「日本国際文化学会研究会」としての勉強会を開催した。

今回は、特別にゲストスピーカーとして、類似のコーディネーター育成事業等に精力的に取り組んでおられる内閣官房（慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所においても教鞭を執っておられる）の早田吉伸氏にご参加いただき、「社会で求められているコーディネーター像」と「既存の大学教育の中で実施できるカリキュラム」との間のギャップを浮き彫りにしつつ、両者を滑らかに結ぶ漸近線としての有効な教育カリキュラム構築の可能性を探ることに重点を置いた。

前半は、研究グループメンバー5名（木原誠、高橋良輔（佐賀大学）、岩野雅子、斉藤理（山口県立大学）、小笠原伸（白鷗大学））による発表を順に行い、これまでの成果を中心に、教育サイドの視点から挙げられる人材育成の展望と課題点等が指摘された。続く後半において、早田吉伸氏による「地域振興と、必要とされる人材育成」と題する講演を伺い、その後、研究メンバーを交えてディスカッションを行ったが、ここで展開された早田氏の提起はきわめて革新的でありながら、社会課題にぴたりと適合した現実的な人材育成モデルであり、文化創成コーディネーターの育成カリキュラムを模索する上で示唆に富む内容であった。具体的には、今日の社会的変動の特質を、具体的データを基に整理しつつ、今後、「社会課題を解決すると同時に、新しい価値を創出していくことのできる人材」が求められていると指摘、また米国大学のカリキュラムを参考にしたという新しい人材育成プログラムについても紹介された。

キーワードは、社会的課題に「ホリスティック（包括的）なアプローチ」で向き合うという点で、続くディスカッションにおいては、大学のプラットフォーム機能を活用しつつ、そうした教育アプローチが可能か、について重点的に意見が交わされた。本研究会の成果は、国際文化学会にて検討されている文化創成コーディネーター資格認定制度の創設に際し資するものとなるほか、今後継続して展開される科研費助成研究においてこのテーマを発展的に深めていく素地を成すものと期待される。

最後に、研究会会場の御手配をいただいた法政大学熊田泰章先生に御礼申し上げたい。

(斉藤理)

●第21回研究会

「クライストチャーチのための歌

——ニュージーランドの震災に対する音楽の役割」の報告

2013年12月19日(木)、18時35分から20時40分まで日本国際文化学会と法政大学国際日本学研究所の共催により、日本国際文化学会の第21回研究会「クライストチャーチのための歌——ニュージーランドの震災に対する音楽の役割」が開催された。開場は法政大学国際日本学研究所セミナー室であった。

今回は、シェリー・ブラント氏（ロイヤル・メルボルン工科大学専任講師）を招き、2011年2月22日にニュージーランド第2の都市であり約38万の人口を抱えるクライストチャーチで発生した地震を取り上げ、震災後に音楽家や音楽活動に従事する愛好家などがどのように被災者の支援に取り組んだか、また、震災からの復興に際して音楽がどのような役割を果たしたかが民族音楽学的観点から検討された。

クライストチャーチ地震からの復興はニュージーランド政府とクライストチャーチ市が中心とし、中央政府の実務担当機関としてカンタベリー地震復興庁（Canterbury Earthquake Recovery Authority: CERA）が設けられた。そして、CERAが6つの戦略からなる復興計画を策定し、4番目の戦略として「文化の復興」を挙げたことはクライストチャーチ地震と音楽の関わりを考える際の重要な手がかりを与えるという指摘がなされた。

また、クライストチャーチの音楽界を代表する催事であるチャート・フェス（CHARTFEST）を主催するクライストチャーチ音楽産業トラスト（The Christchurch Music Industry Trust: CHART）がLove Christchurch: a Seismic Selection of Music from ChristchurchというCDを製作したり、ギャップ・フィラー（Gap Filler）が2ニュージーランドドルで好みのダンス音楽をかけることができるDance-o-matと呼ばれる機器を設置し、あるいはニュージーランドの内外で活動する音楽家22名が合同で製作したSongs for ChristchurchというCDなど、様々な組織や団体が独自の活動を行っていることが紹介された。

一方、地域に根差した取り組みとしてはクライストチャーチを拠点とする専門家や愛好家の活動が取り上げられた。

例えば、音楽愛好家であるエド・ムジーク（Ed Musik）は、当局が進める"Loves It"という取り組みについて、「クライストチャーチは地震によって完全に変容したのであって、震災前と何も変わっていないとすることは人々の目を現実から背けさせる宣伝工作である」と批判し、"Hates It"というアルバムを発表した。

これに対しニュージーランドを代表するヒップホップ歌手のスクライブ（Scribe）は2011年に官民共同による音楽ビデオNot Many Citiesを製作し、クライストチャーチの復興への取り組みの推進を呼びかけた。

さらに、ラジオニュージーランドは震災時から地震報道を中心としつつ適宜ニュージーランドの音楽を放送したこと、地域のラジオ局が大手の音楽会社に所属していない音楽家や音楽愛好家の作品を放送したことなどもあわせて紹介された。

震災からの復興戦略に「文化の復興」が明記されていること、官民共同での文化活動の推進、あるいは各種の団体による取り組みなどが具体的に説明されたことで、クライストチャーチでは音楽が震災という困難な状況に適合し、そこから回復するための手段として用いられていることが実証的に示された、意義深い報告となった。

最後に、今回の研究会の開催を助成された日本国際文化学会及び共催機関となった法政大学国際日本学研究所に改めて謝意を表する次第である。

（鈴木裕輔）

研究会追加募集のお知らせ

以下の要領で追加募集をいたします。ぜひ研究会活動の企画運営にご活用ください。

- ・申請金額：10万円まで
- ・申請締め切り：随時（2014年3月末日まで）
- ・様式：学会ホームページよりダウンロードし、学会事務局宛に提出（メール添付あるいは郵送）。
- ・研究会の実施期間：2014年7月5日(土)開催の学会前日まで。
- ・研究会実施については以下の3点を条件とします。
 - －共催として「日本国際文化学会」を明記する。
 - －学会メンバーの研究・交流・発信活動を支援するものとし、非学会員の講演等が主となるような場合は、そこに学会メンバーも参加をするプログラム（報告、対話、ラウンドテーブル方式による議論等、様式は自由）を用意する。
 - －開催前に国際文化学会ニューズレターおよびホームページの研究会開催コーナーにおいて周知することを了承いただき、また、開催後1か月以内に400～800字程度の報告書を提出し、これを学会ニューズレターおよびホームページで報告することとする。

理事選挙について

2014年4月から5月にかけて、次期の学会理事選挙を行います。学会運営のため、理事選挙にご協力お願いいたします。

次回常任理事会開催のお知らせ

2014年4月6日(日)12:30から早稲田キャンパス8号館501会議室において常任理事会を開催します。
会場へのアクセス <http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

学会の年会費の振込をお願いいたします

2013年度会費納入をお願いいたします。次期の学会理事選挙の被選挙権・選挙権にも関連しますので、ぜひ3月末までの納入をお願いいたします。

一般会員：10,000円、大学院生：5,000円、学部生：2,000円

なお、郵便局の振込用紙を使用される場合は、振込金額内訳を通信欄にお書きの上、下記振込先までお願いいたします。

振込先：01390-1-89396 日本国際文化学会

編集後記

第13回全国大会は、主催校である山口県立大学の皆様のご努力で、その準備が着々と進行しています。本号では、現時点で決定している内容の概要をお届けします。『文化を「しあわせる」』というキャッチフレーズを見るだけで、わくわくしてきます。シンポジウムとワークショップは、文化創成コーディネーター資格制度発足に向けて、大きな弾みをつけるものとなりそうですし、充実した内容の共通論題も決定しました。なお、第1ページに記載のとおり自由論題を募集中ですので、ふるってご応募ください。山口県立大学の皆様には、学会事務局と全国大会開催という二つの大役を同時に担って精力的にご尽力いただいております。心から敬意と感謝の意を表します。（FK）